

感動大賞

私には忘れられない大切な言葉があります。

介護を始めて1年が経とうとしていた頃、当時、病院で働いていた時に末期がんで転院されて来た女性の方と出逢いました。その方は、体中に痛みがありずっと寝ていることが出来ず、何度も寝たり起きたりを繰り返されてました。その旅に動作の手伝いをする必要がある為、介助に入る回数が多かったのですが、部屋を出る際「いつもありがとう。」と優しい笑顔をくれる方で、その笑顔に私も自然と笑顔になっていました。そんなある日、私が夜勤の夜、その方は急変され息を引き取られてしまいました。涙を堪える私に娘さんが、「どうか泣かないで下さい。母はあなたの笑顔が好きでした。その笑顔でたくさんの人を元気にしてください。」と声をかけて下さいました。その言葉を聞いて自分の笑顔がその方の元氣になれていた事に嬉しく思いました。それから15年、その時の言葉が今でも私に、笑顔と元氣をくれています。

幸福賞

私が介護の仕事を始め 15 年が経過しました。長かった様な短かった様な色々な経験をさせていただきました。しかしながら、その中で何度も挫けたり、歩みを止めそうになり辞めてしまおうと思った事もありました。そんな時に私を支えグッとひと踏ん張りさせてくれる出来事、言葉があります。それはある冬の夜勤巡視時の事です。「こっち、〇〇さん」と手招きをする御利用者がおり何事か尋ねたところ献立表の 11 月 23 日を指差しておられたのです。その方は言葉が不自由で毎日訓練として発声練習や脳トレを一生懸命取り組んでおりいつも一緒に計算問題を解くのが日課の方でした。その方が 11 月 23 日を指差ししっかりとした発語ではありませんでしたが「いつもありがとう。」と話しなんとか伝えようと勤労感謝の日を指して気持ちを表してくださったのでした。私はこれからも心に迷いが生じた時にはこのことを胸に前を向いて歩いていきたいと思います。

感動賞

わたしは、はったつしょうがいです。よるねむれないしこわがり、なきむしです。いつもふるえていまう。びょういんにいって、くすりをのんでいます。ちいさいころは、とてもおとなしいおはなしができません。べんきょうもできない。うんどうもできない。なにもできない。わからなかった。わたしのだいすきなことは、ほんをよむことです。わたしは、みんなから、いじめをうけ、せんせいからもおしおきをうけました。くるしかったです。でもがまんしてがっこうにはいきました。ともだちは、できない。いつもひとりでした。おかあさんが、いいました。ゆっくりのんびりといきていけばいいんだよ。いいことが、いっぱいおこるよ。いつも、にこにこえがおでいて、ありがとうのかんしゃのころをもっていればだいじょうふ。っていったの。おかあさん、だいすき。あいしてる。いまは、ぬいぐるみとおはなしをしているの。わたしのだいすきなハローキティちゃんだもんだいすきなことたのしいこといっぱいするといいよ。やりたいことがあったらこわがらないですぐやるといい。

感動賞

その言葉をかけてくれたのは友達の輝君でした。中学生の頃の事です。私は不登校で自分に自信も持てず、人間関係、家族関係も上手くいかず、いつも重たい不安を抱えていました。そんな時、不登校の人達が集まる場所に出逢ったのが輝君です。

初めて出逢った時、輝君は人と距離を置いているようでした。しかし輝君には独特な雰囲気があり、私はそんな輝君に興味津々でいつも話しかけに行きました。すると、輝君もゆっくりと打ち解けてくれて、悩みを聞いてもらったり、笑い合ったり、輝君は思慮深い人なので、時には輝君から学ぶ事もありました。そこで私は輝君に、一番気にしていることを相談してみることにしました。私には髪の毛がありません。可愛いポニーテールにすることもできません。髪型に悩む事もできません。私は生まれつき皮膚の病気です。肌が赤く、人一倍気を遣わなければいけません。そのせいで自身が持てずにいることを話すと、輝君はこう言ってくれました。「ちーちゃんはあるのままでいいんだよ。ちーちゃんにはちーちゃんにしかない良さが沢山あるよ。私がこんなに仲良くなれたのはちーちゃんが初めてだよ。」と言ってくれました。照れ臭さもありましたが、しかし何より、今までの重苦しさが嘘のように軽やかな気持ちになり、自分らしさを大切にしようと思えるようになりました。

輝君と出逢えて本当に感謝していて、ずっと輝君の友達で居たいですし、そばに居たいです。今もそして大人になっても輝君がくれた、この言葉は絶対に忘れません。私を救ってくれた大切な友達です。これが私の救われた言葉です。

感動賞

私を救ってくれた言葉は“共に生きる”です。この言葉は私が入院中に落ち込んでいる時に看護師さんがかけてくださった言葉です。

私は持病を持っており、昨年入院した経験があります。やはり発覚時はとても落ち込みましたし、入院食もまったく手がつけられませんでした。もう食が楽しくなくなり、壊疽、透析などが脳裏によぎりました。言ってはいけませんが、生きる希望が無くなってしまったかのような感じでした。しかし、ある日に階段を昇り降りする運動をしていた際、ある看護師さんとすれ違いました。特に挨拶はせず軽い会釈をして自分の部屋に戻ってすぐに扉からトントン。さきほどの看護師さんが訪問して下さいました。そこから少し話しをさせて頂きました。実はその看護師さんは、私の担当の看護師さんに事情を聞いたとのこと。その看護師さんの息子さんも私と同じ病気を抱えているらしく、私に様々なアドバイスを下さいました。そして最後に、私が持っていた葉に“共に生きる”と書いて下さいました。その言葉を心にし私は生きる。

感動賞

「いつも楽しんで拝見しています」その一言で、表現のごとく心がスーっと落ち着いていったのを覚えている。

施設ホームページの更新担当になり、プレッシャーを強く感じていた。PR としてとにかく更新しないと！内容に語弊や不快が無いように！写真許可とイラストはよく確認！いい意味で気軽に更新すれば良いのだろうが勝手に重圧を感じ、ボタン一つで発信される便利さと怖さに挟まれ、考え考え確認確認し、必死に更新していた時だった。

自分が撮った写真が選ばれた。法人内ホームページから、0 の写真が選ばれ、本部内に展示されるという本部の方が考えてくださった企画とのこと。自分の内容に目を留めていただけたことに、とても感激した。担当の方にお礼を伝えると「いつも楽しんで拝見しています」2 回も選んでいただいた上にさらにそう言葉を頂いた。

「いつも」見てくれて「楽しんで」くれているんだ…心がスーっとするのを確かに感じ、安心感に満たされた。社交辞令かもしれない、それでも認めてもらえたように思えた。それからは、更新業務に落ち着いて向き合えている。ちゃんと見てくれる人が居る、安心が繋がっていると思う。

ほんの一言で、自分のように助けられる人がいるかもしれない。自分も周りをよく視て、そっと言葉をかけられるよう、人を想っていききたい。

わたしは、はったつしょうがいです。よるねむれないしこわがりで、なきむしです。いつもふるえていまう。びょういんにいって、くすりをのんでいます。ちいさいころは、とてもおとなしいおはなしができない。べんきょうもできない。うんどうもできない。なにもできない。わからなかった。わたしのだいすきなことは、ほんをよむことです。わたしは、みんなから、いじめをうけ、せんせいからもおしおきをうけました。くるしかったです。でもがまんしてがっこうにはいきました。ともだちは、できない。いつもひとりでした。おかあさんが、いいました。ゆっくりのんびりといきていけばいいんだよ。いいことが、いっぱいおこるよ。いつも、にこにこえがおでいて、ありがとうのかんしゃのころをもっていればだいじょうふ。っていったの。おかあさん、だいすき。あいしてる。いまは、ぬいぐるみとおはなしをしているの。わたしのだいすきなハローキティちゃんだもんだいすきなことたのしいこといっぱいするといいよ。やりたいことがあったらこわがらないですぐやるといい。

その言葉をかけてくれたのは友達の輝君でした。中学生の頃の事です。私は不登校で自分に自信も持てず、人間関係、家族関係も上手くいかず、いつも重たい不安を抱えていました。そんな時、不登校の人達が集まる場所に出逢ったのが輝君です。

初めて出逢った時、輝君は人と距離を置いているようでした。しかし輝君には独特な雰囲気があり、私はそんな輝君に興味津々でいつも話しかけに行きました。すると、輝君もゆっくりと打ち解けてくれて、悩みを聞いてもらったり、笑い合ったり、輝君は思慮深い人なので、時には輝君から学ぶ事もありました。そこで私は輝君に、一番気にしていることを相談してみることにしました。私には髪の毛がありません。可愛いポニーテールにすることもできません。髪型に悩む事もできません。私は生まれつき皮膚の病気です。肌が赤く、人一倍気を遣わなければいけません。そのせいで自身が持てずにいることを話すと、輝君はこう言ってくれました。「ちーちゃんはあるのままでいいんだよ。ちーちゃんにはちーちゃんにしかない良さが沢山あるよ。私がこんなに仲良くなれたのはちーちゃんが初めてだよ。」と言ってくれました。照れ臭さもありましたが、しかし何より、今までの重苦しさが嘘のように軽やかな気持ちになり、自分らしさを大切にしようと思えるようになりました。

輝君と出逢えて本当に感謝していて、ずっと輝君の友達で居たいですし、そばに居たいです。今もそして大人になっても輝君がくれた、この言葉は絶対に忘れません。私を救ってくれた大切な友達です。これが私の救われた言葉です。

私を救ってくれた言葉は“共に生きる”です。この言葉は私が入院中に落ち込んでいる時に看護師さんがかけてくださった言葉です。

私は持病を持っており、昨年入院した経験があります。やはり発覚時はとても落ち込みましたし、入院食もまったく手がつけられませんでした。もう食が楽しくなくなり、壊疽、透析などが脳裏によぎりました。言っではいけませんが、生きる希望が無くなってしまったかのような感じでした。しかし、ある日に階段を昇り降りする運動をしていた際、ある看護師さんとすれ違いました。特に挨拶はせず軽い会釈をして自分の部屋に戻ってすぐに扉からトントン。さきほどの看護師さんが訪問して下さいました。そこから少し話しをさせて頂きました。実はその看護師さんは、私の担当の看護師さんに事情を聞いたとのこと。その看護師さんの息子さんも私と同じ病気を抱えているらしく、私に様々なアドバイスを下さいました。そして最後に、私が持っていた栞に“共に生きる”と書いて下さいました。その言葉を心にし私は生きる。

私が介護の仕事を始め 15 年が経過しました。長かった様な短かった様な色々な経験をさせていただきました。しかしながら、その中で何度も挫けたり、歩みを止めそうになり辞めてしまおうと思った事もありました。そんな時に私を支えグッとひと踏ん張りさせてくれる出来事、言葉があります。それはある冬の夜勤巡視時の事です。「こっち、〇〇さん」と手招きをする御利用者がおり何事か尋ねたところ献立表の 11 月 23 日を指差しておられたのです。その方は言葉が不自由で毎日訓練として発声練習や脳トレを一生懸命取り組んでおりいつも一緒に計算問題を解くのが日課の方でした。その方が 11 月 23 日を指差ししっかりとした発語ではありませんでしたが「いつもありがとう。」と話しなんとか伝えようと勤労感謝の日を指して気持ちを表してくださったのでした。私はこれからも心に迷いが生じた時にはこのことを胸に前を向いて歩いていきたいと思います。

私には忘れられない大切な言葉があります。

介護を始めて1年が経とうとしていた頃、当時、病院で働いていた時に末期がんで転院されて来た女性の方と出逢いました。その方は、体中に痛みがありずっと寝ていることが出来ず、何度も寝たり起きたりを繰り返されてました。その旅に動作の手伝いをする必要がある為、介助に入る回数が多かったのですが、部屋を出る際「いつもありがとう。」と優しい笑顔をくれる方で、その笑顔に私も自然と笑顔になっていました。そんなある日、私が夜勤の夜、その方は急変され息を引き取られてしまいました。涙を堪える私に娘さんが、「どうか泣かないで下さい。母はあなたの笑顔が好きでした。その笑顔でたくさんの人を元気にしてください。」と声をかけて下さいました。その言葉を聞いて自分の笑顔がその方の元氣になれていた事に嬉しく思いました。それから15年、その時の言葉が今でも私に、笑顔と元氣をくれています。

「いつも楽しんで拝見しています」その一言で、表現のごとく心がスーっと落ち着いていったのを覚えている。

施設ホームページの更新担当になり、プレッシャーを強く感じていた。PR としてとにかく更新しないと！内容に語弊や不快が無いように！写真許可とイラストはよく確認！いい意味で気軽に更新すれば良いのだろうが勝手に重圧を感じ、ボタン一つで発信される便利さと怖さに挟まれ、考え考え確認確認し、必死に更新していた時だった。

自分が撮った写真が選ばれた。法人内ホームページから、0 の写真が選ばれ、本部内に展示されるという本部の方が考えてくださった企画とのこと。自分の内容に目を留めていただけたことに、とても感激した。担当の方にお礼を伝えると「いつも楽しんで拝見しています」2 回も選んでいただいた上にさらにそう言葉を頂いた。

「いつも」見てくれて「楽しんで」くれているんだ…心がスーっとするのを確かに感じ、安心感に満たされた。社交辞令かもしれない、それでも認めてもらえたように思えた。それからは、更新業務に落ち着いて向き合えている。ちゃんと見てくれる人が居る、安心が繋がっていると思う。

ほんの一言で、自分のように助けられる人がいるかもしれない。自分も周りをよく視て、そつと言葉をかけられるよう、人を想っていききたい。